

検査部・感染制御部

■一般目標

- ① 感染症の内科的診療の基礎を身につける
- ② 医療関連感染対策を理解し実践する

初期臨床研修2年目に当部局のローテーション（2～3ヶ月、1ヶ月は不可）が可能である。各科に対して横断的に診療介入を行うという当科の特徴から、ローテートは2年目を原則とする。

■個別行動目標

A-1 感染症症例に対する診療を上級医とともに行う

- A-1-1 患者の基礎疾患と主科の診療内容を把握し、感染症の鑑別疾患を列挙する。
- A-1-2 感染症診断のための病歴聴取と身体診察を行う。
- A-1-3 感染症診断のために施行すべき検査を列挙できる。
- A-1-4 各種抗菌薬の作用機序、スペクトラム、副作用を理解する。
- A-1-5 感染症治療計画の立案を上級医とともに行う。
- A-1-6 主科担当医への診療介入を上級医の指導のもとに行う。
- A-1-7 治療開始後の各種所見から治療効果の判定を行う。
(経験すべき症例)

感染性心内膜炎、肺炎(市中・院内)、腎盂腎炎、髄膜炎
カテーテル関連血流感染、
感染性胃腸炎(クロストリジウム・ディフィシル関連腸炎含む)
手術部位感染、皮膚軟部組織感染、骨髄炎
免疫能低下患者における感染症
(サイトメガロウイルス感染症、深在性真菌症)

A-2 微生物検査室における検査内容を理解し基本的手技を身につける

- A-2-1 各種微生物検査検体の適切な採取方法を理解する。
- A-2-2 検体の適切な輸送と保存の方法を知る。
- A-2-3 グラム染色を自分で施行し、所見を述べる。
- A-2-4 各種培地の特性を理解し、培地上の発育所見から菌種の推定を行う。
- A-2-5 各種迅速検査の適応を理解し、検査結果を解釈する。

A-3 感染症治療薬の薬物血中濃度モニタリング(TDM)を上級医とともに行う。

- A-3-1 TDMが必要な感染症治療薬を列挙できる。
- A-3-2 各薬剤について血中濃度測定のコアタイミングと病態に応じた至適濃度を知る。
- A-3-3 血中濃度測定結果をもとに投与量と間隔を立案する。

B-1 標準予防策を理解し施行する。

B-1-1 衛生的手洗いの手技を習得し、適切なタイミングで施行する。

B-1-2 適切な个人防护用具を選択し正しく使用する。

B-1-3 感染性廃棄物を適切に分別する。

B-2 針刺し事故防止のための適切な手段と事故遭遇時の対処法を身につける。

B-2-1 金属針のない器具を積極的に使用する習慣を身につける。

B-2-2 安全装置付き器具を正しく使用する。

B-2-3 病室での採血・観血的処置には針箱を携帯する習慣を身につける。

B-2-4 自身の麻疹、風疹、水痘、HBs抗体価を把握する。

B-2-5 針刺し事故時に適切な対処と報告を行う。

3 感染経路別予防策を理解し、感染管理認定看護師や上級医とともに対策指導を行う。

1 各種病原体に必要な感染経路別予防策を知る。

2 感染経路別予防策(接触、飛沫、空気)施行に必要な措置を列挙する。

・研修目標

グラム染色が理解できる。

感染症疑い患者に必要な初期診断・初期治療が理解できる。

・研修スケジュール

終日：当日の診療当番とともに、感染制御部業務にあたる。

月	火	水	木	金
10:00	8:30 ICT室：抄読会			
ICT室：症例カンファレンス、 TDMカンファレンス				13:00 微生物実習

研修最終週には、症例等のまとめ発表あり。